ISSN 2435-2950

様 似 郷 土 館 紀 要

BULLETIN OF SAMANI FOLK MUSEUM

3号 2021.3

口絵

＜紀要＞

【調査報告】令和２年度様似町冬島遺跡発掘調査報告(髙橋美鈴)・・・・・・ 1
【論　　文】冬島遺跡出土の特徴的な土器(大泰司統)・・・・・・・・・・・・ 9
【研究ノート】ジオパークを中心とした地域学習プログラムの構築と運営
(髙橋美鈴)・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17

＜年報＞

様似郷土館 ・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・25
1. 施設概要
2. 運　　営
3. 郷土館利用状況
4. 郷土館事業活動内容
5. 学芸員の館外対応
6. 様似郷土館条例・施行規則

アポイ岳ジオパークビジターセンター・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
1. 施設概要
2. 運　　営
3. ビジターセンター利用状況
4. ビジターセンター事業活動内容
5. 学芸員の館外対応
6. アポイ岳ジオパークビジターセンターの設置及び管理運営に関する要綱

口絵 1

冬島遺跡遠景 (南から)

冬島遺跡遠景 (東から)

口絵２

遺跡範囲図

【調査報告】

令和２年度様似町冬島遺跡発掘調査報告

(The excavation report of the Fuyushima site in SAMANI, Japan)

髙橋　美鈴[1] (TAKAHASHI Misuzu)

１．調査要項

遺　跡　名	冬島遺跡(登載番号　K-08-11)
発掘主体者	様似町教育委員会
調査の目的	詳細分布調査
調 査 期 間	令和２年８月 29 日
所　在　地	様似郡様似町字冬島 39 ほか
調 査 面 積	1.8 ㎡

２．調査体制

教育長		荒木　輝明
生涯学習課	課　長	秋山　寛幸
	参　事	川口　達也
	主　幹	児玉　正敏
	係長(学芸員)	髙橋　美鈴(発掘担当者)

３．遺跡概要

本遺跡は、北海道日高管内様似町冬島地区に所在し、冬島川とポンサヌシベツ川に挟まれた標高 38m前後の海岸段丘上に立地する(図 1)。本遺跡の存在は古くから知られ、昭和 40 年代には、元静内高校教諭であった藤本英夫氏の指導のもと、発掘調査が実施されており、日高町門別富仁家墳墓群(北海道指定史跡)や浦河町白泉遺跡との類似性が指摘されている。また、昭和 56 年には、様似高校教諭であった小柳正夫氏の指導のもと、様似高校郷土史研究クラブ・様似町郷土史研究会が主体となって発掘調査を実施している。この時の調査では、竪穴住居跡が１軒、小型のピットが数基確認されるとともに、獣骨がまとまって出土している。

図１　冬島遺跡位置図(国土地理院５万分の１に加筆)

これらの調査記録や様似町立様似郷土館で保管されている発掘資料から続縄文文化期初頭の集落跡の可能性が高いと考えられる。

1．様似町教育委員会

4．調査概要

様似町教育委員会では、冬島遺跡について一部耕作による撹乱等を受けているものの遺跡が良好に残存していることから、遺跡の性格や範囲の確認を目的とする発掘調査を平成 26 年度より実施している。

平成 30 年度は、東西方向の遺跡範囲を確認する目的で 2m×１m程度のテストピットの８か所設定し、調査を実施した。この結果、調査範囲東側では造成等により遺物法包含層は消滅していることが明らかとなった。

令和元年度は、平成 30 年度に実施したトレンチ１か所を南北方向に拡張し、調査を実施した。

令和２年度は、広範囲の遺跡の範囲を確認することを目的として、埋蔵文化財包蔵地及び隣接地に 0.5m 角のテストピット７か所（ＴＲ９～15）を設定し、調査を実施した（図版１-１）。本報告書では、これらの令和２年度発掘調査について報告する。

基本土層は、以下のとおりである。

Ⅰ層：表土・耕作土など。

Ⅱ層：黒色土。続縄文文化期初頭の包含層。

Ⅲ層：暗褐色土。続縄文文化期初頭の包含層。

　　Ⅲa 層：人工的な堆積土。

　　Ⅲb 層：人工的な堆積土。Ⅲa 層よりも魚骨を多く含む。

Ⅳ層：黒色土。令和２年度調査では、確認されていない。

Ⅴ層：漸移層。

Ⅵ層：黄褐色土。Ⅴ層下の粘土層または礫層。

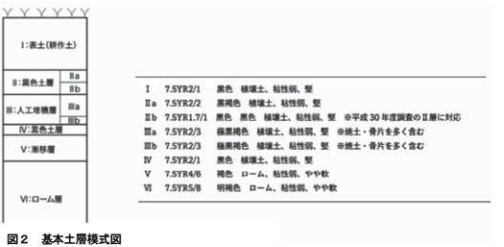


図２　基本土層模式図

５．調査の方法

（１）調査区の設定

遺跡の範囲及びその隣接地に任意でテストピットを設置し、令和元年度調査からの連番である TR９以降の番号を付した。

（２）調査

表土～Ⅴ層まで随時精査しながら人力で掘削をおこなった。また、掘り下げは、遺物の出土の程度によって移植ゴテやジョレン、スコップを使い分けた。

(3)整理の方法

一次整理

水洗・分類・注記をおこなった。注記は土器小片・石器小片を除く全ての遺物に対しておこなった。

	年度	遺跡名	試掘坑名	層位
(試掘坑出土遺物例)	R2	フユ	TR○	Ⅲ

二次整理

出土遺物を様似郷土館に持ち帰り、遺物カード作成・遺物台帳作成・土壌の水洗選別を実施した。

水洗選別には、ステンレス製のふるい(メッシュ1㎜以下)を使用した。

収納・保管

出土遺物は、掲載遺物と非掲載遺物に区分し、コンテナに収納した。コンテナには、調査年度・遺跡名・遺物名などの情報をラベル表記した。

(4)分類

土器

Ⅰ群　縄文時代早期に属する土器群。本年度は出土せず。

Ⅱ群　縄文時代前期に属する土器群。本年度は出土せず。

Ⅲ群　縄文時代中期に属する土器群。本年度は出土せず。

Ⅳ群　縄文時代後期に属する土器群。本年度は出土せず。

Ⅴ群　縄文時代晩期に属する土器群。本年度は出土せず。

Ⅵ群　続縄文文化期に属する土器群。

石器

分類に使用している器種の名称は以下のとおりである。

剥片石器：石鏃（長軸4㎝未満)、二次加工のある剥片（Rフレイク)、剥片（フレイク)

6．調査の内容

本調査では、3か所のテストピット（TR11、12、15）から遺物が出土した。遺物出土総点数は122点で、テストピット別内訳はTR11で105点、TR12で10点、TR15で7点であった。

各試掘坑の調査概要は以下のとおりである(図版1-2、2-3)。なお、土層についてⅢ層がない場合は、Ⅱ層とⅣ層の区別が困難であるため、Ⅱ層とした。

TR9　本年度の調査の中で最も東側に位置する。調査の結果、黒色土が確認された。基本土層のⅡ層に相当すると考えられる。遺物は出土しなかった。

TR10　本年度の調査の中で最も南側に位置する。ローム層の直上に黒色土が厚く堆積していた。基本土層のⅡ層に相当すると考えられる。遺物は確認されなかった。

TR11　平成28年度調査区から西に約40mの距離に位置する。魚骨を多く含むⅢ層が良好に確認された。遺物はⅢ層から土器75点、フレイク23点、石鏃1点、獣・魚骨6点が出土した。図4－1～11は、全て口唇上に縄文もしくは刻みを施しており、2～4、6には縄縄文、5には横走沈線がみられる。

ＴＲ12　平成 28～30 年調査区の北側に位置する。Ⅱ層から土器４点、フレイク６点が出土した。

ＴＲ13　本年度の調査でもっとも北側に位置する。Ⅱ層を確認したが遺物は出土しなかった。

ＴＲ14　本年度の調査でもっとも北側に位置する。Ⅰ層の直下にⅤ層が確認された。削平を受け包含層が消滅したと考えられる。

ＴＲ15　ＴＲ９よりもやや北東側に位置する。プライマリーな黒色土であるⅡ層が厚く堆積し、Ⅱ層から土器６点、Ｒフレイク１点が出土した。

表１　令和２年度出土遺物一覧

器種/層位	TR11	TR12	TR15	総計
	Ⅲ	Ⅱ	Ⅱ	
土器	**75**	**4**	**6**	**85**
剥片石器	**24**	**6**	**1**	**31**
石鏃	1	0	0	1
フレイク	23	6	0	29
Rフレイク	0	0	1	1
獣骨・魚骨	**6**	**0**	**0**	**6**
総計	105	10	7	122

表２　令和２年度出土石器の石材別集計

石材/器種	剥片石器			総計
	石鏃	Rフレイク	フレイク	
黒曜石	1	1	16	18
頁岩	0	0	13	13
総計	1	1	29	31

７．まとめ

本調査では、ＴＲ９、10，11、12、13、15 でプライマリーな黒色土の堆積が確認された。また、ＴＲ11、12、15 から遺物が出土した。

特にＴＲ11 では、動物骨・魚骨を多く含む人工的な堆積層（貝塚層）が確認され、ＴＲ11 の範囲まで貝塚層が広がることが判明した。

また、ＴＲ15 で遺物が確認されたため同地点までは遺跡の範囲として認めることができる。ＴＲ９では遺物の出土がないものの、遺物包含層であるⅡ層の堆積が認められたため、遺跡範囲を拡張すれば遺物が出土する可能性がある。

このことから、遺物が出土したＴＲ15 までの範囲を遺跡確認範囲とし、Ⅱ層は確認されたが遺物が出土していないＴＲ９付近を遺跡推定範囲とし、平成 30 年度調査により遺物包含層が削平により消滅していたことが確認されている東側については遺跡消滅範囲とした（図３・口絵２）。

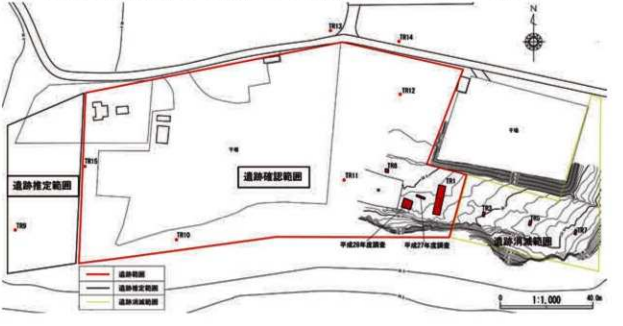


図３　遺跡範囲図

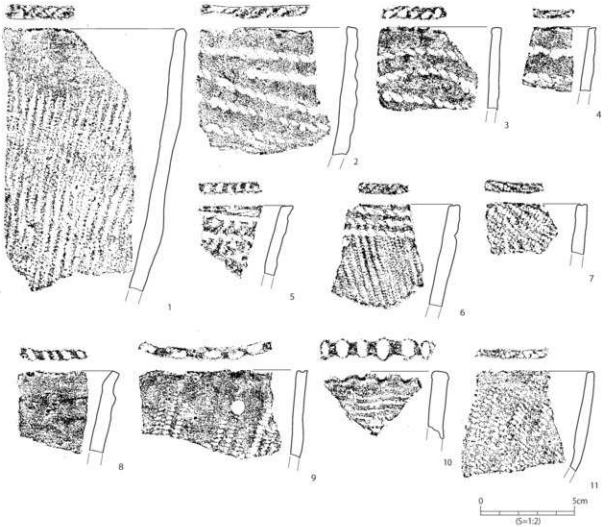
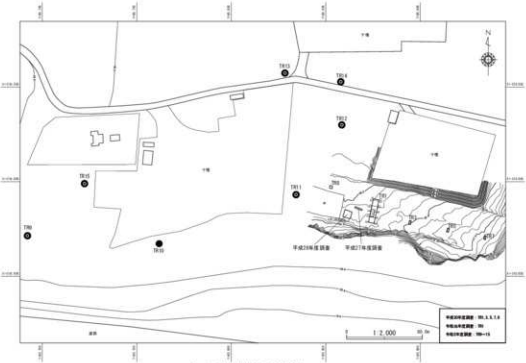


図4　ＴＲ11 出土土器

表３　掲載土器一覧

掲載番号		部位	トレンチ名	層位	分類	文様等
挿図	図版					
図 4-1	2-6-1	口縁	ＴＲ11	Ⅲ	Ⅵ	LR 縄文、口唇上縄文
2	2-6-2	口縁	ＴＲ11	Ⅲ	Ⅵ	縄線文、口唇上縄文
3	2-6-3	口縁	ＴＲ11	Ⅲ	Ⅵ	縄線文
4	2-6-4	口縁	ＴＲ11	Ⅲ	Ⅵ	縄線文、口唇上縄文
5	2-6-5	口縁	ＴＲ11	Ⅲ	Ⅵ	横走沈線、刺突列、LR 縄文、口唇上刻み
6	2-6-6	口縁	ＴＲ11	Ⅲ	Ⅵ	縄線文、RL 縄文、口唇上縄文
7	2-6-7	口縁	ＴＲ11	Ⅲ	Ⅵ	RL 縄文、口唇上縄文
8	2-6-8	口縁	ＴＲ11	Ⅲ	Ⅵ	無文、口唇上刻み
9	2-6-9	口縁	ＴＲ11	Ⅲ	Ⅵ	LR 縄文
10	2-6-10	口縁	ＴＲ11	Ⅲ	Ⅵ	口唇上刻み
11	2-6-11	口縁	ＴＲ11	Ⅲ	Ⅵ	LR 縄文

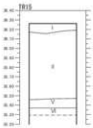
図版１



1　調査位置図(S=1/2000)

2　セクション図(TR９～14)(S=1/40)

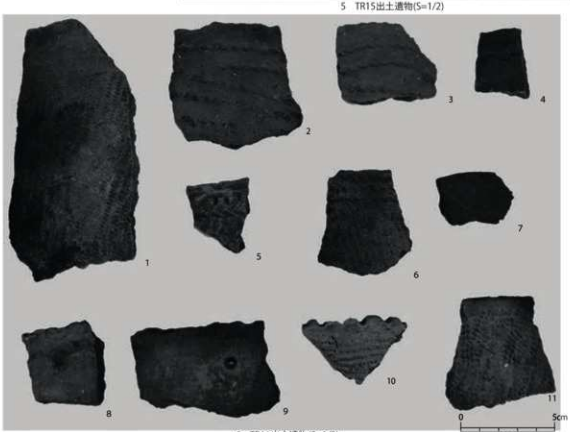
調査位置図・セクション図



3　セクション図(TR15)(S=1/40)

4　TR12出土遺物(S=1/2)

5　TR15出土遺物(S=1/2)



6　TR11出土遺物(S=1/2)

セクション図・出土遺物

報 告 書 抄 録

ふりがな	さまにちょうふゆしまいせきはっくつちょうさほうこく
書名	様似町冬島遺跡発掘調査報告
副書名	
巻次	
シリーズ名	様似郷土館紀要
シリーズ番号	3号
編著者名	髙橋美鈴
編集機関	様似町教育委員会
所在地	〒058-8501 北海道様似郡様似町大通1丁目21番地 TEL 0146-36-2521
発行年月日	令和3年(西暦2021)年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	世界測地系 北緯	世界測地系 東経	調査期間	調査面積	調査原因
ふゆしまいせき 冬島遺跡	さまにちょうふゆしまいせきはっくつちょうさ 様似郡様似町字冬島39ほか	01608	K-08-11	42°06′05″	142°59′08″	20200829	1.8㎡	詳細分布調査

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ふゆしまいせき 冬島遺跡	集落跡	縄文時代晩期～続縄文文化期初頭		土器、石器、獣骨・魚骨	

要約	調査範囲は冬島川とポンサヌシベツ川に挟まれた海岸段丘上に位置しており、調査では続縄文文化期初頭の土器が出土した。

【論　文】

冬島遺跡出土の特徴的な土器

(Characteristic earthenware excavated from the Fuyushima site)

大泰司　統（OHTAISHI　Osamu）[1]

はじめに

2019 年以来、冬島遺跡の調査や出土遺物を拝見する機会を発掘担当者高橋美鈴様似郷土館学芸員に頂いてきた。その際、二点の気になる事があった。一つ目は、2019 年出土の土器集中 1 で、その出土状況から、この土器群が続縄文文化のある時期の土器様相を示している可能性があった。令和元年の報告(高橋：2020)では「土器集中」とされたが、今回は調査時の呼称「土器集中 1」を用いる。二つ目は、昭和 56 年調査成果の壺形土器破片である。横ミガキを主とした調整によっておおよそ無紋地で、張り出す肩とそこに水平に巡る沈線が、北東北地方で遠賀川系と呼ばれる壺を思わせた。ただし大洞 A’式の工字文の名残を思わせる一対の突起や、胴部下半側に若干残る縦走縄文地紋など独自性があった。これらの遺物を図化する許可を様似町から頂けた。今回、図化したものを掲載する。

1.　図化と観察（図 1・2・3、表 1・2）

図 1 に土器集中 1 を検出したトレンチ TR1 の位置を示した。土器集中 1 は 10 点図化、冬 1～10 とした。壺は冬 11 とした。冬 1～11 の実測図を縮尺 1/4 で図 2、1/5 の断面図を利用した観察図を図 3、大きさと残り具合を表 1、出土位置を表 2 に示した。土器集中 1 の出土状況は、図 4 に平面と垂直分布を示した。表 2 点取り番号の項目で№1～31 で示した番号が図 4 の№1～31 に対応する。図 4-a・b は調査時に、取り上げの便宜から上位(a)と下位(b)に分けた、その出土状況図である。壺(冬 11)は図 1 に当時の記録とそれに基づいた出土位置を示す。記録図 1-c から埋設土器の可能性もあった。また、壺肩部破片には、東海大学松本建速教授作図の実測図が様似郷土館にあり、参照させていただいた。以上の観察図表に加えて、2 項では土器集中 1 について、3 項では壺について補足説明をする。

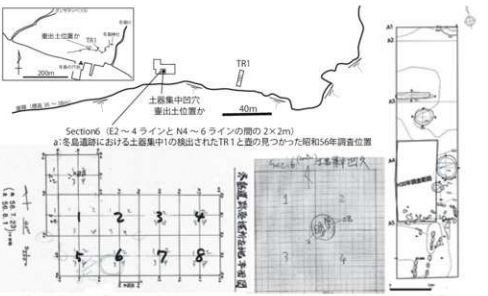


図1　冬島遺跡位置図および調査範囲

1.公益財団法人　北海道埋蔵文化財センター

2. 土器集中1(冬1～10)の類例と時期(図4・図5・表3)

土器集中1の出土状況の検討を行った。土器集中1の上位、下位の状況を撮影した写真をもとに上位と下位にまたがって撮影された測量ピン2とその脇の礫と土器底部№31の3点を利用して、上位出土状況実測図、紀要の各挿図から、図4を作成した。配石遺構として、礫集中3とした直線状のものと、調査担当者から土坑P-4を取り囲んでいる可能性の指摘があった部分を示した。

冬1と冬2は上位に分布するが、散けた破片であった。冬2については下位にいたる№31や№21にも破片が混在している。冬6についても上位で点取りがなされているがこの№19は冬10（№1・2・4・7～9のまとまり）より3cm下位にまとまっていた。配石に近い高さから出土した冬3と冬7について冬7は冬6と地紋の施文方法が似る。冬6と冬7の底部成形を袖珍土器化したものが冬3の形状と考えた。下位扱いで取り上げられた冬9(№27と№29は)は標高的には上位と同じでなおかつ破片がまとまっている。冬8(№28)は位置的に他個体と若干離れたまとまりである。出土状況で時期的な差異を見出す事は難しい状況であったが、敢えて可能性を言うと冬1・2・3・6・7は配石により近い時期で、冬4・5・8・9・10が破片のまとまりも良いことから、若干、新しい可能性もある。冬10は扇谷昌康が提唱した東歌別遺跡第2類土器の特徴を持つ東歌別式土器(扇谷：1963)と考える。小石が胎土に混じり、乾　芳宏の第1類相当である(乾：1991)。第1類は仮称A群相当とされ、これは東歌別式の中でも古段階の可能性があるとされた(表3)。

小型鉢、冬1・2の検討に他遺跡の類例とその関連遺物を図5に示す。よく似た3が釧路市興津遺跡出土(釧路市：1978)で興津式として報告される。2は常呂川河口遺跡、宇津内Ⅱa期の128a竪穴床面出土、1は常呂川河口遺跡ピット788d-1出土で砂沢式まで遡るとされた(常呂町：2005)。大川遺跡GP-944にも類した鉢のセット34～38(余市町：2000)が恵山式と報告される。むかわ町汐見第一地点第一号墳墓第二墓穴からも鉢9～12の出土がある。新冠町大狩部遺跡(藤本：1961)7・8は6号ピットに伏せて副葬してあったものである。この底面から石斧が出土している。石狩市紅葉山33号遺跡(石狩町：1984)にGP-62(27～30)とGP-63(31～33)がある。やはり石斧を伴うものである。江別市元江別1遺跡の墓19にも石斧が伴い、土器がまとまって出土する。24は高橋正勝に大狩部式とされた(高橋：2003)が、共伴遺物はより新しく、東歌別式2類(乾　1991)的だが突瘤の無い縄線文土器である。13・14は入れ子状に出土、宇津内Ⅱa式様の刺突列(13)や貼付(14)がある。冬8は14・19・21のように穿孔が突起に対応し、残存率が低く不確定だが器形も14・19のようになる可能性がある。14・22～26は大沼忠春が幌川式とした（大沼：2004)。札幌市H37遺跡・栄町地点(札幌市：1998)は二枚橋式から宇鉄Ⅱ式の頃とされ(鈴木：2003)、小型鉢が出土する。4は1号竪穴住居、5はC地区4層出土である。冬1・2と比べると口縁部の内彎度合いが乏しい。冬2のように内彎する口縁に内から外への刺突が巡り、頸部の屈曲が乏しい小型鉢は興津式から宇津内Ⅱa式にかけて存在した。

3. 壺（冬11）の類例と時期(図5・図6・表3)

図6の9・11～14・16は岩手県北上市兵庫館跡出土の弥生時代の壺である。9は遠賀川系、13・16は在地文様があり、無紋地の11・12・14は、1・3・7といった統縄文文化の壺と比べると特に11・14は肩の張りや沈線文に遠賀川系を連想する。遠賀川系はミガキ調整で無紋地、胴部最大径が胴部中心より上にあり肩部が張り出し気味である。遠賀川式土器とは北九州に分布する前期弥生土器の様式名であり、東北地方の「遠賀川系壺」という文言は弥生時代前期を思わせる。北東北地方(青森県・岩手県・秋田県)にも類例がある。このような遠賀川式土器と遠賀川系土器について、東北地方全域については須藤　隆の論考(須藤：2003)がある。そこでも引用されるが青森県での事例集成は、市川

金丸と木村鐵次郎が南郷村(現・八戸市)島守松石橋遺跡出土壺の検討の際に行っている(市川・木村：1984)。今回は大枠として、遠賀川系壺が続縄文文化のどの時期に該当する遺物かについて確認した。兵庫館跡出土の遠賀川系土器9と複数の埋設土器について、小田野哲憲は岩手県内の遠賀川系壺出土例が馬淵川水系に多い事と異なる北上川水系の出土例として取り上げ、蔵骨器の可能性を示した(小田野：2000)。在地文様から岩手県・谷起島式の頃と思われ、これは青森県の・二枚橋式とほぼ並行する(表3)。二枚橋式を前期とする編年案(例として青森県：2005)であれば前期終り頃の壺となる。一方で二枚橋式を弥生時代中期とする編年であれば(例として石川：2005a・b・佐藤：2015)中期となる。そして佐藤由起男の広城編年(佐藤：2015)に基づくならば、板付Ⅱ式以後、つまり所謂、遠賀川式と呼ばれる土器型式より的新しい段階まで遠賀川系壺が存続する可能性がある。仮に土器集中の時期が興津式～宇津内Ⅱa式の範疇であるとして、壺もそれに近い時期とすると、大沼忠春の編年(大沼：2004)に基づくならばこれは二枚橋式を主として宇鉄Ⅱ式にかかる時期に該当する。北九州の弥生時代前期の土器に似たものが北東北地方では中期まで残る可能性があり、その可能性は北海道にも有るという事になるが、現段階では不確定要素が二重にあり、今後の検討課題とする。不確定要素ということでさらにつけ加えると、兵庫館跡の蔵骨器群も配石遺構(12脇)を伴う。ひとつの礫を取り囲むような形状である。また17から石斧基部が出土した。

北海道の壺で小型鉢と組み合わせがタプコプ遺跡(苫小牧市：1984)にある(図6-1～6)。17号墳墓壺1は口縁に帯が巡り、兵庫館跡11・16を思わせる。また30号墳墓壺3は三本一組の沈線で施文する熊様把手を持つ独特な浅鉢6を伴う。兵庫館跡9・11には三本一組、14・16には二本一組の沈線文があり、元江別1遺跡(江別市：1981) 墓19の一括土器図5-13～26のうち二～三本一組の沈線を有する個体は多い。図6-7に動物意匠を持つ興津式とされた壺を示す。報告書では蛙とされたが、頭部と手足の向きと臀部の突き出す形状が浅鉢6と似る。16には冬2に似たおおよそ前後一対の穿孔がある。また、冬11の口縁部に突起が並び、肩部が張った壺が門別町トニカ遺跡pit16から出土している(図5-41)(門別町：1979)。冬11の縦走に対して横走する縄文地紋だが、口縁部の突起列と頸部に押圧が連続する帯が巡る様はやはり11・16を思わせる。この壺は報告書では埋設の可能性が指摘され、隣のpit17に石が並び、遺跡の時期は縄文時代晩期終末から続縄文初頭とされた。大狩部式を大洞A'式段階まで含める解釈(矢吹：1996)もあるが、冬11は突起が遠賀川風の沈線と一体となり、突起上に刺突を持つ点が、より新しい変化を示すと想定し、続縄文文化の段階と考えた。

4. 結論

土器集中1は、出土状況を踏まえて、興津式から宇津内Ⅱa式の古い段階に類例のある冬1・2を含む群と、墓19に類例を持つ冬8や東歌別式と思われる冬10を含むより新しい群とに分けられた。だがいずれも宇津内Ⅱa式の範疇で連続性が高い。古い群は二枚橋式・大狩部式の範疇である。新しい群は東歌別式古段階の頃から軽川式段階にかかる可能性も持つ。配石遺構脇のP-4出土鋲先の類例が伊達市南有珠6遺跡Ⅵ層から出土(三橋：1983)し、この土層は二枚橋式より新しいが宇津内Ⅱa式古段階相当で、軽川式や瀬棚南川Ⅲ群よりやや古いとされる(大沼：2004)。以上の結果から土器集中1の形成時期は興津式から宇津内Ⅱa式にかけて、言い換えると二枚橋式から田舎館式にかけての、とある期間(表4)と考えた。壺(冬11)もこの時期の範疇の可能性がある。

謝辞

様似町では高橋美鈴氏、田村裕之氏から様々な便宜を図って頂きました。記して感謝致します。

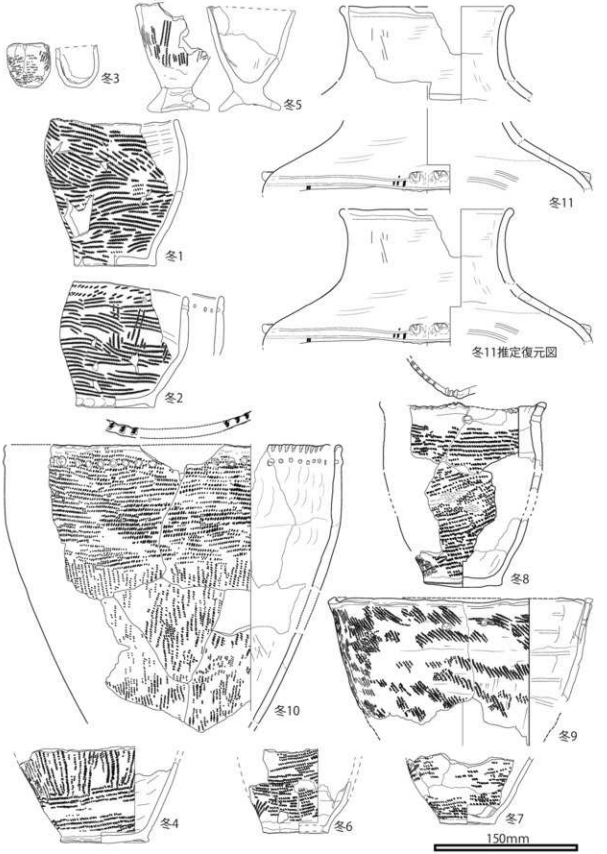
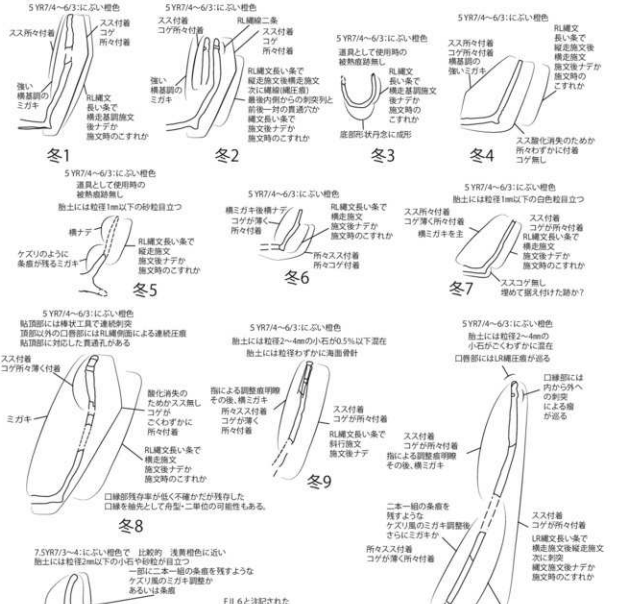


図２　冬島遺跡出土土器



実寸の五分の一で断面図を加工して掲載
色調参照: 1996年9月刊行の『新版　標準土色帳』18版　1996年後期版
農林水産省農林水産会議事務局　監修財団法人日本色彩研究所　色票監修

図3　冬島遺跡出土土器観察図

表1　寸法と残存率

	大きさ(cm)			残存率(%)	
番号	口径	底径	器高	口縁部	底縁部
冬1	13.5	8.6	15.5	32	100
冬2	12.2	8.3	13.2	80	100
冬3	4.4	2.1	4.6	27	100
冬4	–	9.1	–	0	100
冬5	9.4	6.5	11.5	20	20
冬6	–	6.9	–	0	100
冬7	–	5.8	–	0	80
冬8	17.5	8.5	–	25	100
冬9	28	–	–	56	0
冬10	38	–	–	28	0
冬11	18	–	–	13	0

口・底縁部の残存率 50%以下の場合、同心円から径を推定

表2　接合破片の出土位置と点数

番号	出土位置	層位	取り上げ番号	点数	備考	配置図番号	配置図番号
冬1	AⅡ	表	No.3	1		配置-1	配置図 3-6-1
	AⅡ	表	No.2	1			
	AⅡ	表	04Ⅰ5	4			
	土器集中1	表		9			
	土器集中1	表	No.10	1			
	土器集中1	表	No.11	3			
	土器集中1	表	No.12	1			
	土器集中1	表	No.13	1			
	土器集中1	表	No.20	4			
冬2	土器集中1	表	No.7	2		配置-4	配置図 3-6-4
	土器集中1	表	No.21	1			
	土器集中1	表	No.22	1			
	土器集中1	表		3	本体部分 土器集中1 第-2か		
	土器集中1	表	04Ⅰ5	4			
	未採取	表		12			
冬3	AⅡ	表		1	台戦No.7-6	—	配置図 3-6-2
冬4	土器集中1	表	No.31	1		—	配置図 3-6-1

番号	注記	層位	番号	点数	備考
冬5	土器集中1	表	No.5	2	
	土器集中1	表	No.19	6	
冬6	AⅡ	表	04Ⅰ5	2	
冬7	AⅡ	表	04Ⅰ5	4	
	配石	表	04Ⅰ5	2	
冬8	土器集中1	表	No.28	6	
	AⅡ	表		2	
	AⅡ	表	04Ⅰ5	1	
冬9	土器集中1	表	No.27	6	
	土器集中1	表	No.29	3	
	AⅡ	表		1	
冬10	土器集中1	表	No.1	1	
	土器集中1	表	No.2	3	
	土器集中1	表	No.4	1	
	土器集中1	表	No.5	1	
	土器集中1	表	No.6	4	
	土器集中1	表	No.9	2	
	土器集中1	表		3	
冬11裏面	5	2		1	縦走10本の隆線「土器集中2区」に
	3	1		1	縦走か横走か「土器集中2区」に
冬11口縁部	6	2		9	横走か

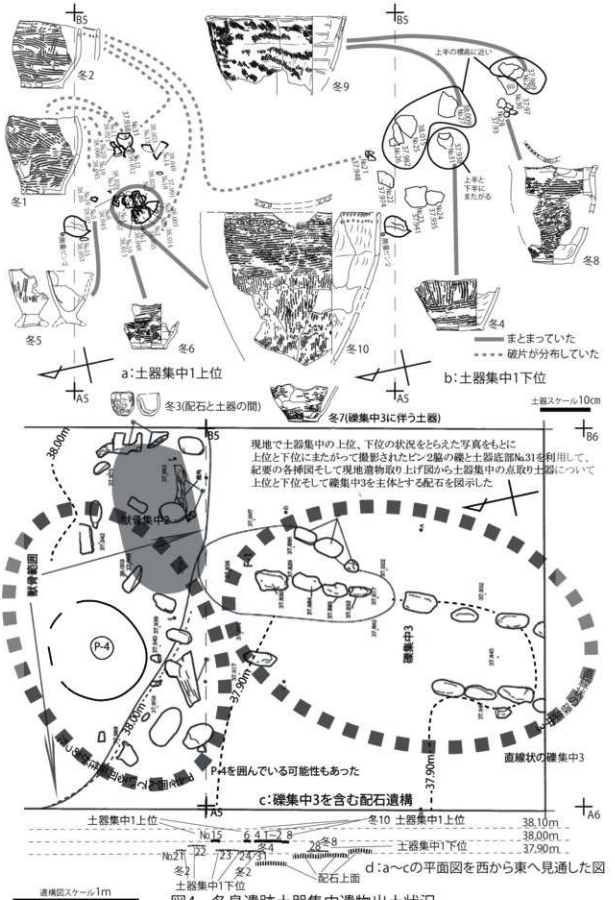


図4　冬島遺跡土器集中遺物出土状況

表3　冬島遺跡関連編年表

大沼忠春の時間軸(大沼忠春2004から抜粋)				道南(大沼忠春2004から抜粋)		南有珠6遺跡 報告書(伊達市1983)での対応	道央(大沼忠春2004から抜粋)		矢吹俊男(1996)	乾芳宏(1991)	道東(大沼忠春2004から抜粋)			石川(2005)から抜粋		青森市史(2005)時部
				桧山・瀬棚・奥尻西部			勇払・後志・石狩・空知	日高		日高えりも町	十勝・釧路・根室	網走	時代	北上川流域	青森	
縄文晩期	大洞A式	縄文晩期						氷川神社			緑ヶ丘1式新	中ノ島A				
弥生	第3～2世紀	砂沢式	Ⅰ期前半	縄文晩期	南有珠6遺跡VII・VIII層	Ⅰ期		汐見	大狩部式	大狩部式	フンコロタンケ下層	栄浦第一	前	砂沢式	砂沢式	前
		二枚橋式			南有珠6遺跡VI層	Ⅱ期	H317　N30	大狩部式		東釧型式1～2類(仮称A類)	興津式	中ノ島	弥生	谷起島式	五所式/二枚橋式	
	前1世紀	宇鉄Ⅱ式	Ⅰ期後半				江別太B6				下田ノ沢Ⅰ式古	字津内Ⅱa式古	中	川原場式	宇鉄式/大石平式	中
		田舎館式		兼棚南川Ⅲ	南有珠6遺跡V層	Ⅲ期	江別太B5・親川式	東釧型式		東釧型式3～4類(仮称B類)	下田ノ沢Ⅰ式新	字津内Ⅱa式新	代			
	1世紀	亀塚式					後北A式			後北A式	下田ノ沢Ⅱ式古	字津内Ⅱb式古				
		赤穴式	Ⅱ期	兼棚南川Ⅳ	アヨロ3a						下田ノ沢Ⅱ式新	字津内Ⅱb式新	後			後

表4　土器集中1の時期を推定

土器集中1が形成された時期（今回の検討での推定・今後の検討を要する）

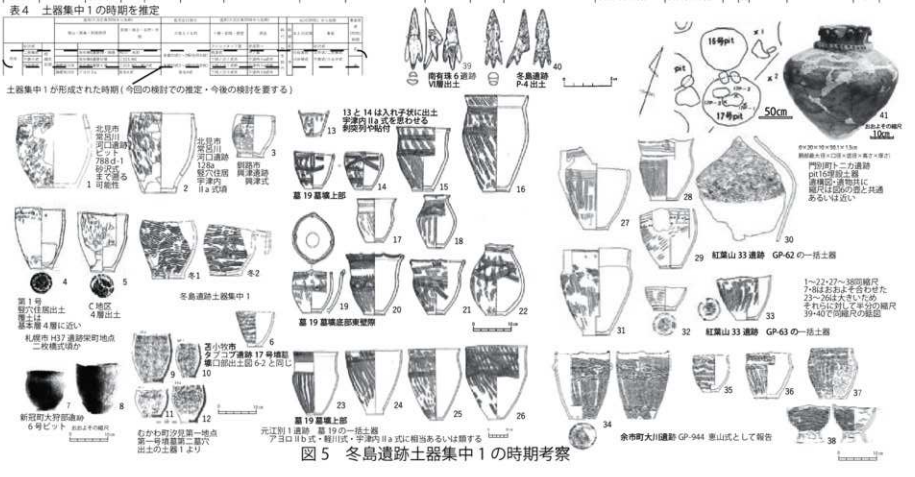


図5　冬島遺跡土器集中1の時期考察

引用・参考文献
青森県 2005『青森県史資料編考古3　弥生～古代』青森県庁環境生活部　県民生活文化課　県史編さんグループ
石川日出志 2005a「弥生中期谷起島式に後続する磨消縄文土器群」『岩手考古学』17　p. 7-24
石川日出志代表 2005b『関東・東北弥生土器と北海道続縄文土器の広域編年』明治大学考古学研究室
市川金丸・木村鐵次郎 1984「青森県石橋遺跡から出土した弥生時代前期の土器」『考古学雑誌』69-3　p. 98-106
乾　芳宏 1991「えりも町東歌別遺跡出土の続縄文土器について」『十勝考古学とともに』
江別市教育委員会 1981『元江別遺跡群』p. 247-249 墓 19
扇谷昌康 1963「幌泉郡東歌別遺跡調査概報」『北海道の文化　特集号』北海道文化財保護協会
大沼忠春編 2004『考古資料大観 11　続縄文・オホーツク・擦文文化』p. 42-43 ほか
大場利夫・扇谷昌康 1964「勇払郡鵡川遺跡」『北方文化研究報告』第十九輯　p. 19
小田野哲憲 2000「遠賀川系土器・下」『遺跡は語る：旧石器～古墳時代：いまって未来への遺産』岩手日報社出版部編　岩手日報社
釧路市立博物館・釧路市埋蔵文化財センター 1978『釧路市興津遺跡発掘調査報告書Ⅱ』p. 74
（財）岩手県文化振興事業団埋蔵文化財センター 1993『埋蔵文化財調査報告書 180：兵庫館跡・梅ノ木台地 2 遺跡発掘調査報告書』
札幌市　1998『H37 遺跡栄町地点』札幌市文化財調査報告書 57　秋山洋司　1 号竪穴住居 p. 79-6、C 地区 4 層 p. 93-240
佐藤由紀男編 2015『弥生土器』ニューサイエンス社
鈴木　信 2003「3 道央における続縄文土器の編年」『千歳市ユカンボシ C15 遺跡(6)』p. 410-452
須藤　隆 2003「土器の移動―東北地方における遠賀川系土器―」『考古学の方法　東北大学文学部考古学研究会会報　第 4 号』p. 2-8
高橋正勝 2003「江別文化の成立と発展」p. 33『新 北海道の古代 2 続縄文・オホーツク文化』野村崇・宇田川洋編 p. 30-49
高橋美鈴 2020「令和元年度様似町冬島遺跡発掘調査報告」『様似郷土館紀要』2 号 p. 53-91 様似町教育委員会
常呂町教育委員会 2005『常呂川河口遺跡(5)』竪穴床面 p. 75 竪穴住居 128a　p. 249 ピット 788 d
藤本英夫 1961「北海道日高国新冠村大狩部の墳墓遺跡」『古代学』1961　第九巻　第三號　図版第九
三橋公平 1983『伊達市南有珠 6 遺跡』札幌医科大学解剖学第二講座　噴火湾沿岸貝塚遺跡調査報告書 I
門別町教育委員会 1979「第七章　富仁家(トニカ)遺跡」『日高門別の先史遺跡』p. 84・85・97・98・129・図版 14-1　pit16
矢吹俊男 1996「大狩部式土器」『日本土器辞典』大川清編　雄山閣
余市町教育委員会 2000『大川遺跡における考古学的調査Ⅲ(墓壙篇 2)』p. 124-125　GP-944

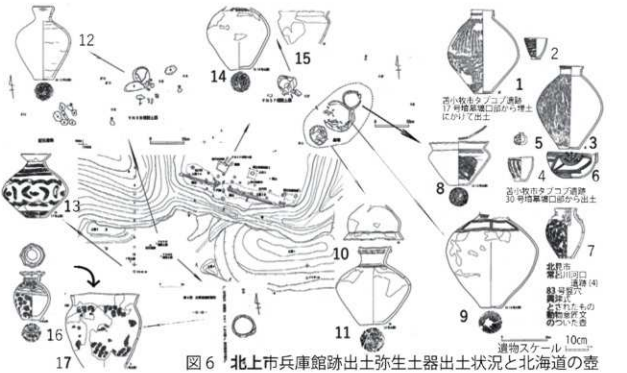


図 6　北上市兵庫館跡出土弥生土器出土状況と北海道の壺

【研究ノート】

ジオパークを中心とした地域学習プログラムの構築と運営
—地域連携で子どもの複合的能力の向上を目指して—

(Construction and operation of regional learning programs centered or Geoparks)

高　橋　美　鈴[1](TAKAHASHI Misuzu)

はじめに

子どもを対象とした事業では、地域の遺産（歴史・地質）を「わかりやすく」、「深く」知ることが目的となっている事例が多くみられる。この場合、参加者はそれらについて「知る」「学ぶ」「体験」することが最終到達点となる。結果、どの事業でもある対象について教える、教わるの関係性が根底にある知識教授型のプログラムとなり、教える側は教える方法を工夫し、「面白い」や「わかりやすい」と言ったプログラムを構築する。

そのため、時には子ども達が事業を遊びのように受け取り、学習とかけ離れた体験事業になることも度々起こる。

しかし、平成29年には小・中学校の、平成30年に高等学校の学習指導要領が改訂され、小学校学習指導要領の総則では「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて「課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等」を育むとともに「個性を生かし多様な人々との協働を促す教育の充実」の実現を図り、「児童の生きる力を育むこと」が挙げられている。

このことから、社会教育事業においても、「教える」、「教わる」の関係を基礎とした事業展開ではなく、子どもたちの思考力、判断力、表現力などの複合的能力を養う事業プログラムの構築と運営が必要となる。

これらの背景から、様似郷土館では町内他施設と連携し、地域遺産・資源といった事柄をツールとし、子どもたちの考える力を中心とした複合的能力の向上を目的とした地域学習プログラムの構築と運営をおこなった。

1．目的

町の全域がユネスコ世界ジオパークに認定されている様似町の特色を活かし、町内文化施設が連携してジオパーク（フィールド）を軸として対話による鑑賞及び図書を用いた調べ学習を取り入れた体験型事業をおこなう。そして、これらの地域学習をとおして、子ども達が観察、解釈、根拠をもった考察、意見の再検討、そして複数の可能性を追求する能力など「総合的な能力」の向上を目的とした事業の運営及び構築をおこなう。

2．構成機関と役割

①様似郷土館

フィールドワークに対し、ファシリテーターであるスタッフとの「対話による鑑賞」を取り入れ、子ども達の「主体的・対話的で深い学び」に向けた総合力を育む。

1.様似町教育委員会

②町立様似図書館

フィールドワークに図書資料を用いた「調べ学習」を取り入れることで、子ども達の疑問や想像を解決する力を養う。

③アポイ岳ジオパークビジターセンター（様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会）

各館と連携し、町内（ジオパーク）を活用した、主体的な深い学びをおこなえるフィールドワークを構築する。

３．地域学習プログラム

下記の２つのプログラムを主軸として目的を達成する。

①対話による理解度の向上

職員がファシリテーターとなり、事業を通じて子ども達に「物をよくみること」「観察したものごとについて考察する」「他の人の意見をよく聴いて考える」「話し合い、さまざまな解釈の可能性について考える」ことを促す。

そして、ファシリテーターはそれらをもとに「どうしてそう思ったか」「もっと発見はあるか」とさらなる理解度の向上を促進する。

②調べ学習による理解度の向上

事業の対象について、生まれた疑問に対して図書などの検索ツールを用いて解決する手法を習得することで参加者の知的好奇心、思考力、読解力などの「総合的な能力」の向上を促す。

４．実践的なプログラムの構築

（１）実践１「様似の海を知ろう！」

目的：地元の海の生物や漂着物などを探し、標本箱を作成する中で、対話による地元の海への理解度の向上及び図書を利用した調べ学習をおこなう。また、８月に実施する様似と函館の海の比較の事前事業として位置付ける。

内容：岩礁で岩石や貝殻などを拾い、海の標本箱を完成させる。

実施日：令和元年７月２１日（日）

時　間：10:00～14:00

参加人数：中学生　３人（＋小学生２人）

場　所：町立様似図書館・町内海岸

＜事業の流れ＞

①事業説明

事業に先立ち、事業の目的、行程などを説明する。また、１人に１冊ずつ野帳を渡し、観察ノートとしての利用を促す。

②海の生き物の洗い出し

まず、初めに簡易のホワイトボードを机上に置き、各々が思いつく「海にあるもの」を書き出してもらう（図１）。

職員は、参加者が記載しやすいよう声かけをして回る。特に、言葉としては出すが、ボードに書くことを渋る傾向が見られたため、口に出したものをボードに書くよう促す。

③現地での標本箱作り

磯に行き、実際に標本箱を作成してもらう。標本箱は、プラスチックケース内を６等分になるよう仕切りを入れており、岩石３個と貝３個を入れるようにした。

参加者は、まず、海から離れたところでの採取をしていたため、職員が海近くまで行き、参加者にも近づくよう促し、ホワイトボードに記載した海の生き物を実際に見つけてみるなど、当初のイメージと実際の磯の感覚のすり合わせをおこなった。

職員は、「ホワイトボードに記載したものがあるか？」などと声かけをし、より詳しく観察させるよう促した。また、参加者は各々で現地の状況や採取した資料を野帳にスケッチするなどした（図２）。

そのほか、現地では、岩石が専門の学芸員が石を割って見せたり、石の解説をしたりして、石の観察方法などをレクチャーした。

④調べ学習

図書館に戻り、事前に記入したホワイトボードの内容と突合わせをおこなうとともに、本を利用した標本箱の資料の同定をおこなってもらう（図３）。

最後に自身の標本箱について、１分程度の説明をしてもらい、子ども達が観察した内容を解釈し、説明するといった「総合的な能力」の向上を図った。

（２）実践２「地球を知ろう！」

目的：対話をしながら海の生き物や地質についての観察及び図書を利用した学習をおこなう。

内容：エンルム岬で地球の成り立ちを学びながら『自分のお気に入りのモノ』１点を見つけて、それらについて調べ学習をおこないジオカードを製作する。

実施日：令和元年 10 月６日（日）

時　間：13:00～16:00

参加人数：小学生　２人

場　所：町立様似図書館・エンルム岬海岸

＜事業の流れ＞

①事業説明

事業に先立ち、行先や最後に製作するジオカード（図４）の説明をおこなう。また、併せて１人に１台、カメラと双眼鏡を渡す。

②現地でお気に入りのモノを探す

海岸手前にある様似郷土館から歩きながら海岸に向かう。海岸までの行程にある古井戸やそこから見える風景、鳥などを双眼鏡で観察し、また写真撮影などをしながら職員と対話し、目的地に進む。現地ではお気に入りのモノを探し、そのほかに気になったものは以前に配付した野帳に記載するように促す。

③調べ学習

海岸から図書館に移動し、実際に調べたいものの写真を1点選んでもらう。その後に、資料の名前や学名、特徴など本を利用して調べる。

また、最後に自身が製作したジオカードの説明を1人 45 秒で説明してもらうようにし、説明で必要となる専門用語なども別途調べて野帳に記入する。

（3）実践3「様似の冬を知ろう！」

目的：冬のフィールドを歩いて生き物の痕跡などを観察し、自然への理解を深める。

内容：観察した事柄について図書館で図書を用いて調べ、『フィールド地図』を完成させる。

実施日：令和2年1月 26 日（日）

時　間：10：00～13：00

参加人数：小学生　2人

場　所：町立様似図書館・田代地区林道

＜事業の流れ＞

①事業説明

事業に先立ち、行先や最後に製作する『フィールド地図』の説明をおこなう。また、1人に1台双眼鏡とルーペ、資料持ち帰り用の袋を渡す。

②現地で観察し、気になることを野帳に記入

林道を往路と復路 50 分程度散策しながら自由に観察をおこなってもらう。随時、気になったものは以前に配付した野帳に記載するように促す。職員は、往路ではあまり観察について意図的にみてもらうような声かけはせず、なるべく参加者が見つけたものについて対話を膨らませるように心がけた。復路では、モモンガの巣穴など見つけにくいものについて観察の声かけをして、観察の補助をおこなった。

参加者たちは、雪に残った動物の足跡や樹皮の模様を観察しながら「樹皮の模様が動物の模様に似ている」「○○に見える」などと他のものに例えながら観察をおこなっていた。また、凍った川に注目し、氷の下にある気泡や氷の層の出来方などを参加者同士互いに話し合っていた。また、氷の厚みを確かめるのに石を投げ、石の大きさや重さから氷の厚みを考えていた。

③調べ学習

林道散策のあと図書館に移動し、持ち帰ってきたものや現地で気になったものについての調べ学習をおこない、地図に書く情報量を増やした。

また、最後に完成した『フィールド地図』（図５）の説明を２人合わせて２分間で説明してもらうようにした。

（４）実践４「牧場で“牛” を知ろう！！！」

目的：町内に所在する牧場で牛、豚、羊を見学し、町内の産業についての理解を深める。
また、辞書の使い方を覚え、より発展した調べ学習を目指す。

内容：牧場を見学し、牛・豚・羊について説明を受けて気になったキーワードを「牧場MAP」（図６）に記載し、図書館において辞書を用いた調べ学習を実施する。

実施日：令和２年９月５日（土）

時　間：10:00~12:00

参加人数：小学生　２人

場　所：町立様似図書館・新富地区

＜事業の流れ＞

①事業説明

事業に先立ち、行先や最後に製作する『牧場 MAP』の説明をおこなう。

②現地で観察し、キーワードを MAP に記入

現地で牧場主からそれぞれの動物についての説明を聞きながら、事前に配布した MAP に各々気になったキーワードを書き込む。

まず、牛についての説明があり、実際に牛に触らせてもらった。子どもたちは、はじめは牛の大きさに圧倒されていたが、牧場主の説明や会話を通して牛への恐怖心が和らぎ、最終的には牛に触ってその毛質などを確かめていた。その後は、羊や豚について説明を受けて見学をさせてもらったが、動き回る動物を観察することにより、動物の特徴や身体能力について学んでいた。

また、スタッフはファシリテーターとして子どもたちに声掛けをし、会話を通してより深い学びを促した。

本事業では、観察の対象が動き回る生き物だったこともあってか、子どもたちが見た動物の仕草などを私たちスタッフに教えてくれる機会が多かった。これまでの実践１～３では、観察の対象が自然フィールドであったため「どうしてそう思ったか？」「他には？」と言ったような思考力を養う対話であったが、動物などの生き物を扱った本事業では、子どもたち自身が見た事柄を私たちスタッフに説明をする対話が主になった点で違いが見られた。

③調べ学習

現地で記入したキーワードについて事典を用いて調べ学習をおこなう。その後、調べた内容について１分間スピーチを実施した。

５．まとめ

フィールドを対象とした対話による鑑賞は初めての試みであり、スタッフ側も手探り状態での実施であった。特に、参加者に対して観察することを促すのではなく、引き出すという点で、とても難しさを感じた。事業時間の制約があり、フィールドの情報量に対して観察時間が少なく、１つの事柄について深い対話をする時間がないことも、対話による鑑賞を難しくしている。しかし、現状１人の参加者に対しスタッフが１名ないし２名で対応できることから、事業を重ねるにつれ少しずつではあるが深い対話に結びついている。

調べ学習については、回を重ねるごとに本で調べる力がついてきているように感じる。また、野帳・学習シート・調べ学習を合わせて活用する効果も見られた。

現段階ではスタッフがかなり調べ学習の補助をおこなっており、今後これらの補助を減らしていくことが課題となる。

おわりに

これまでスタッフが手探りの状態の中で、対話による鑑賞と調べ学習を組み込んだ地域学習プログラムの構築・運営を進めてきた。スタッフのファシリテーター能力の向上や子ども達への段階的な調べ学習の指導などまだまだ課題も多く、改善すべき点も多い。

しかし、フィールドをツールの１つとして子どもたちの「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて「課題を解決するために必要な思考力、判断力、表現力等」を育むという目的の中で、ファシリテーターと１対１での対話をおこなう本事業は一定の効果があったものと考えられる。

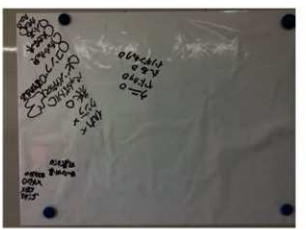


図１　調査前の海の生き物の洗い出し（実践１）

図２　野帳活用例（実践１）

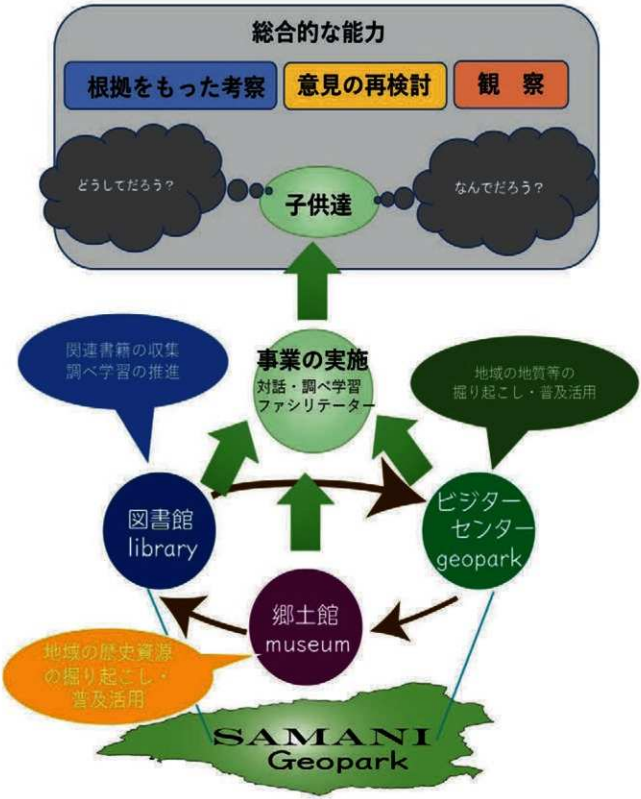
図３　調べ学習風景と作成した標本箱（実践１）

図５　作成したフィールド地図（実践３）

図４　ジオカード（実践２）

図６　牧場 MAP（実践４）

構成機関役割イメージ図



＜年　報＞

様似郷土館

1. 施設概要

所 在 地　〒058-0024　北海道様似郡様似町会所町１番地
建物構造　鉄筋コンクリート平屋建て
建物面積　199.74 ㎡
開　　館　昭和 42 年 4 月 5 日
開館時間　10：00～16：30
休 館 日　月曜日、祝日の翌日、年末年始

2. 運営

(1) 組織

郷土館館長 ─┬─ 学芸員(郷土館担当)
　　└─ 会計年度任用職員(事務補助)

(2) 職員

教育委員会
教育長　荒木　輝明
生涯学習課参事　川口　達也(郷土館館長)
生涯学習課主幹　児玉　正敏
　　係長(学芸員)　高橋　美鈴(郷土館担当)
会計年度任用職員(事務補助)　小川　静香

(3) 様似郷土館運営審議会（兼）様似町文化財調査委員会

任期：令和元年 11 月 1 日～令和 3 年 10 月 31 日
委 員 長：笹島　秀則
副委員長：佐々木　正
委　員：成田　康尋、前　春雄、泉田　小百合

3. 郷土館利用状況

令和２年度は、239 日の開館、375 人の来館者であった。また、4 月 20 日から 5 月 25 日についてはコロナウイルス感染症予防対策のため、11 月 24 日から令和 3 年 1 月 8 日については郷土館内の展示リニューアルのため臨時休館とした。

月別の開館日数・入館者数は、次のとおりである。

月	日数	大人	小人	町内	道内	道外	計
4月	16	12	3	8	5	2	15
5月	6	3	0	2	1	0	3
6月	25	14	3	3	14	0	17
7月	26	40	21	26	21	14	61
8月	27	45	0	7	28	10	45
9月	26	42	34	49	14	13	76
10月	27	47	2	2	34	13	49
11月	19	12	0	2	3	7	12
12月	0	0	0	0	0	0	0
1月	20	15	0	7	8	0	15
2月	22	22	1	13	9	1	23
3月	25	57	2	9	36	14	59
計	239	309	66	128	173	74	375

4. 郷土館事業活動内容

(1) 寄贈資料受入件数

受　入　日	資　料　名	点　　数
4月17日	ビデオカメラ	1
4月25日	剥製「雉」	2
5月29日	計算機 他	2
9月1日	携帯電話	4
9月2日	柱時計	1
―	写真「日高線」	4
12月24日	富士フイルム製フィルムカメラ 他	13
12月29日	レコード他	10
1月27日	日本電工野球部ユニホーム他	16
2月26日	日高絵葉書	1
	合　　計	54

(2) 公開・展示

・パネル展「記念物１００年ーパネルで振り返る全国と様似の史跡名勝天然記念物ー」
同時開催：「北の縄文リレー展 in 様似」（主催：北海道）

実施期間　令和２年９月 19 日～10 月１日　　会　　場　中央公民館ギャラリー21
関連事業　ギャラリートーク
開 催 日　令和２年 10 月１日
内　　容　１「令和２年度冬島遺跡発掘調査について」　様似町教育委員会　高橋　美鈴
　　２「アポイドリームプロジェクトってなーに？」アポイ岳ファンクラブ　田村　裕之　氏
　　３「縄文時代の北海道ブランド」　北海道教育庁　村本　周三　氏
　　４　パネル解説

(3) 講演・講座

・アポイカレッジ(講演)

講座名「我が国初の「西洋式地図」と襟裳、様似」
講　師　神　英雄　氏（安来市加納美術館 前館長）
日　時　令和２年８月 26 日～　※コロナウイルス感染予防のためオンライン公開
会　場　様似町中央公民館　小ホール
内　容　神　英雄　氏（安来市加納美術館 前館長）をお招きして、幕府天文方で蝦夷地沿岸の測量調査を行った堀田仁助についての講演会を実施した。

講座名「知ろう！！学ぼう！！「アイヌ文化」」
講　師　髙橋　美鈴(様似町教育委員会)、大野　徹人(様似町教育委員会)
日　時　令和２年 12 月 18 日
会　場　様似町中央公民館　小ホール
内　容　当町学芸員によるアイヌ文化についての講演とアイヌ施策推進事業の中間報告をおこなった。

講座名「蝦夷三官寺・シャマニ等御院の選択―幕末維新期の規制緩和への対応―」
講　師　谷本　晃久氏（北海道大学　教授）
日　時　令和３年３月 26 日
会　場　様似町中央公民館　文化ホール
内　容　谷本　晃久氏（北海道大学　教授）とリモートで繋ぎ、幕末の等御院における法灯維持についての講演会を実施した。

(4) 共催・協力事業

・「様似山道・猿留山道 PR パネル展」

主　催：日高振興局森林室
協　力：様似町教育委員会・えりも町教育委員会
日　時：令和２年９月１日～９月 17 日
会　場：日高振興局１F　道民ホール

・「木育ひろば in チカホ」

主　催：北海道、林野庁北海道森林管理局、公益社団法人北海道森と緑の会
協　力：北見木材株式会社、遠軽町、公益財団法人ニッセイ緑の財団、一般社団法人ガールスカウト北海道連盟、様似町、えりも町、フォレストデジタル株式会社、北海道芸術デザイン専門学校
日　時：令和３年１月 23 日～１月 24 日
会　場：札幌駅前通地下歩行空間北３条交差点広場（西）

・ジオじゅくジュニア「牧場で“牛”を知ろう！！」

共　催：様似郷土館、町立様似図書館、様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会
日　時：令和２年９月５日
会　場：町立様似図書館、新富地区

・ジオじゅくジュニア「サマニクエスト」
共　催：様似郷土館、町立様似図書館、様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会
日　時：令和３年２月 28 日
会　場：町立様似図書館、第二体育館

(5) 連携事業

町立様似図書館、様似郷土館、アポイ岳ジオパークビジターセンターの３館の連携講座「カンカン講座」を月１回実施した。実施日、実施内容については、以下のとおりである。

日　付	事　業　名	参加者数	担　当　館
4 月～6 月	(コロナウイルス感染症対策のため中止)	―	―
7 月 18 日	野外読書会	9	図書館
8 月 8 日	ベンガラ泥染めでミニ手ぬぐい作り	11	郷土館
9 月 26 日	ジおさんぽ-様似八景コースをお散歩しよう-	中止	アポイ岳ビジターセンター
10 月 24 日	疫病退散！ブラバンでしおり作り	9	図書館
11 月 14 日	かんらん岩ストラップ作り・隕石を見てみよう	8	アポイ岳ビジターセンター
12 月 19 日	紙紐 de しめ飾りづくり	10	郷土館
1 月 16 日	オリジナル貼箱づくり	10	郷土館
2 月 13 日	絵本カバーでエコバックづくり	9	図書館
3 月 6 日	万華鏡づくり&様似の水中映像を見てみよう	9	アポイ岳ビジターセンター

(6) 資料の貸出等

令和２年度の資料貸出等の件数は、21 件であった。内訳は貸出５件、デジタルデータ貸出(・掲載) 12 件、閲覧・撮影等３件、資料調査１件で、総貸出点数は 255 点であった。詳細は以下のとおりである。

日　付	区　分	資　料　名	点　数
5 月 29 日～31 日	貸出	片口	1
6 月 23 日	デジタルデータ貸出	東邦オリビン工業㈱関係写真	4
7 月 1 日	デジタルデータ貸出	冊子「ガンピの神様」使用写真データ	6
7 月 17 日	デジタルデータ貸出	町内写真データ(「私たちの町」昭和三十二年(一九五七)、行事いろいろ③、林業・鉱工業、昔を偲ぶ町並みの移り代わり①②、漁業①②、農業(稲作・畜産)、戦時事象と忠霊塔、架橋の変遷と海上・陸上交通、町制施行記念行事、あり日の学び舎①②、様似小学校運動会、旧様似中学校、旧様似高等学校)	77
10 月 4 日	デジタルデータ貸出	記録映画「日高線と生きる(仮題)」制作のための JR 日高線写真データ(林業・鉱工業、架橋の変遷と海上・陸上交通)	7
10 月 9～21 日	デジタルデータ貸出	日本電工に関する展示検討写真データ(幌満川電源開発と日本電工①、日本電工㈱関係写真、幌満川第３発電所建設アルバム)	27
11 月 9 日～ 12 月 19 日	デジタルデータ貸出	時空旅人ベストシリーズ(12 月 19 日発売)掲載写真(冬島遺跡出土遺物写真、イヨマンテの風景写真や儀式道具展示、資料館外観、学芸員画像)	4

11月25日～ 12月1日	デジタルデータ貸出	むかわ町の郷土史に係る調査のための写真データ(鵡川ししゃも、華道作品展記念、本間吉五郎法営来会者記念、鵡川真友会集合、門別消防第4部金馬廉伝達式、霜口製炭部就業安全大祈祷記念、天理教葬儀、不明(集合・家族)、鵡川村尋常小学校第4年生、鵡川村尋常小学校)	11
11月25日～ 12月1日	複写・撮影	等浦院蜜簿	1
12月1日	資料調査	写真(鵡川ししゃも)、華道作品展記念写真、本間吉五郎法営来会者記念写真、鵡川真有会集合写真、門別消防第4部金馬廉伝達式記念写真、霜口製炭部就業安全大祈祷記念写真、天理教葬儀写真、不明写真、集合写真	12
12月3日～8日	貸出	雑誌、二眼カメラ、黒電話	4
12月14日～25日	貸出	昭和40年(1965)頃の日本電工㈱日高工場全景	1
12月22日～ 8月11日	デジタルデータ貸出	JR日高線写真データ(蒸気機関車、様似駅転台車、C11～蒸気機関車、様似駅舎、西様似駅舎、鵜苫駅舎)	12
1月17日～24日	デジタルデータ 貸出・掲載	日本電工関係写真	22
1月9日～3月31日	貸出	冬島遺跡出土土器資料	5
1月20日～26日	貸出	コート	1
1月28日～	デジタルデータ 貸出・掲載	日本電工関連写真	22
2月5日～15日	閲覧・その他	日高線関連写真	一式
3月15日～31日	デジタルデータ 貸出・掲載	日高線関連写真	35
3月17日～6月30日	デジタルデータ借用	写真（対馬氏卒業記念T10）	1
3月31日	複写	様似町戸別詳細図	2
		合　計	255

5. 学芸員の館外対応

・**高橋学芸員**(専門：保存科学)

日　付	所　在　地	内　容
7月14日	様似町	様似小学校1・2年生遠足の事前学習
9月10日～11日	様似町	様似小学校5年生の宿泊学習
10月3日～5日	余市町、標津町	北海道内ガラス玉調査
11月11日	札幌市	北海道博物館協会あり方検討委員会
2月25日	様似町	モンゴル国内博物館職員向け講義

(高橋　美鈴)

6. 様似郷土館条例・施行規則

○様似郷土館条例

昭和４２年１月２５日条例第１９号
改正　昭和４３年９月１９日条例第９号
昭和５４年９月２５日条例第６号
平成１３年７月２日条例第１８号
平成２４年３月９日条例第４号

（設置）

第１条　本町の教育学術及び文化の発展に寄与するため、様似郷土館（以下「郷土館」という。）を設置する。

（名称及び位置）

第２条　郷土館の名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
様似郷土館	様似郡様似町会所町１番地

（職員）

第３条　郷土館に、館長及び職員定数条例（昭和２７年様似町条例第９号）の範囲内において、様似町教育委員会（以下「委員会」という。）が必要と認める職員を置く。

（郷土館運営審議会）

第４条　郷土館に郷土館運営審議会（以下「審議会」という。）を置く。

２　審議会は、郷土館の運営に関し、委員会の諮問に応ずるとともに、館長に意見を述べる機関とする。

３　審議会の委員（以下「委員」という。）は、学校教育及び社会教育の関係者、家庭教育の向上に資する活動を行う者並びに学識経験のある者の中から委嘱する。

４　委員の定数は、５人以内とし、その任期は、２年とする。ただし、補欠による委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（教育委員会規則への委任）

第５条　この条例の施行に関し必要な事項は、教育委員会規則で定める。

附　則

この条例は、公布の日から施行する。

附　則（昭和４３年９月１９日条例第９号）

この条例は、公布の日から施行する。

附　則（昭和５４年９月２５日条例第６号）

この条例は、公布の日から施行する。

附　則（平成１３年７月２日条例第１８号）

この条例は、公布の日から施行する。

附　則（平成２４年３月９日条例第４号）

この条例は、平成２４年４月１日から施行する。

○様似郷土館条例施行規則

昭和５５年４月２２日
教育委員会規則第９号
改正　昭和６１年１１月２７日教委規則第３号
平成１３年８月１日教委規則第２号
平成２９年４月２０日教委規則第５号

（趣旨）

第１条　この規則は、様似郷土館条例（昭和４２年様似町条例第１９号）第５条の規定に基づき、様似郷土館（以下「郷土館」という。）の管理及び運営に関し、必要な事項を定めるものとする。

（事業）

第２条　郷土館は、次の各号に掲げる事業を行う。

（１）　郷土資料の分類及び整理に関すること。

（２）　資料に関する専門的及び技術的な調査研究を行うこと。

（３）　実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真及びフイルム、レコード、録音テープ等の資料を収集し、保管し、及び展示すること。

（４）　資料の利用に関し、必要な説明、助言及び指導を行うこと。

（５）　講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。

（６）　郷土館に関する資料の作成及び広報に関すること。

（開館時間及び休館日）

第３条　郷土館の開館時間及び休館日は、次のとおりとする。

（１）　開館時間　午前１０時から午後４時３０分まで

（２）　休館日　次に掲げる日

ア　月曜日

イ　国民の祝日に関する法律（昭和２３年法律第１７８号）に規定する祝日の翌日（ただし、その日が土曜日、日曜日及び月曜日に当たるときは、その翌開館日）

ウ　１月１日から同月５日まで及び１２月３１日

２　前項の規定にかかわらず、館長は、管理運営上特に必要と認めたときは、その開館時間を伸縮し、臨時に休館し、又は臨時に開館をすることができる。

（入館料）

第４条　郷土館の入館料は、無料とする。

（入館の制限）

第５条　館長は、次の各号いずれかに該当するときは、郷土館を利用しようとする者又は利用者に対して入館を禁じ、又は退館させることができる。

（１）　風俗又は公安を害するおそれがあるとき。

（２）　郷土館の建物又はその展示物等をき損し、又は滅失するおそれがあるとき。

（３）　その他郷土館の管理運営上適当と認め難いとき。

（入館者の遵守事項）

第６条　入館者は、郷土館においては、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

（１）　所定の場所以外で飲食し、又は喫煙しないこと。

（２）　建物、設備、展示資料等を汚損し、損傷し、又はその設備、展示資料等を所定の場所から持ち出さないこと。

（３）　他の入館者に迷惑をかける行為をしないこと。

（運営審議会）

第７条　様似郷土館運営審議会（以下「審議会」という。）に会長及び副会長各１人を置く。

２　会長及び副会長は、委員の互選による。

３　会長は、審議会を代表し、審議会の議長となる。

４　副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるときは、その職務を代理する。

５　審議会は、必要に応じて会長が招集する。

６　審議会の議事は、出席委員の過半数で決し、可否同数のときは議長の決するところによるものとする。

（委任）

第８条　この規則に定めるほか、必要な事項は、館長が別に定める。

附　則

この規則は、公布の日から施行する。

附　則（昭和６１年１１月２７日教委規則第３号）

この規則は、公布の日から施行する。

附　則（平成１３年８月１日教委規則第２号）

この規則は、平成１３年８月１日から施行する。

附　則（平成２９年４月２０日教委規則第５号）

この規則は公布の日から施行する。

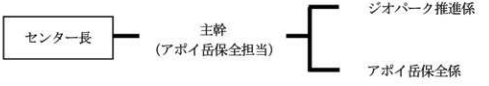
アポイ岳ジオパークビジターセンター

1. 施設概要

所在地　〒058-0004　北海道様似郡様似町字平宇 479 番地の 13・14
建物構造　鉄骨造地上 1 階建
建物面積　499.28 ㎡
開館　平成 25 年 4 月 1 日
開館時間　午前 9 時から午後 5 時
休館日　12 月 1 日から 3 月 31 日

2. 運営

(1) 組織



(2) 職員

様似町
商工観光課長　田村　裕之(センター長)
商工観光課主幹（アポイ岳保全担当）　坂下　志朗
商工観光課ジオパーク推進係長　佐々木　将貢
商工観光課アポイ岳保全係長　加藤　聡美
商工観光課アポイ岳保全係学芸員　水永　優紀
会計年度任用職員　澤井　珠代、橋爪　伸恵

3. ビジターセンター利用状況

月	日数	個人	団体	計
4 月	19	471	0	471
5 月	5	389	0	389
6 月	30	1,191	0	1,191
7 月	31	2,049	52	2,101
8 月	31	2,744	0	2,744
9 月	30	1,819	20	1,839
10 月	31	842	18	860
11 月	30	398	16	414
12 月				0
1 月				0
2 月				0
3 月				0
計	207	9,903	106	10,009

4. ビジターセンター事業活動内容

(1) 寄贈資料受入件数

受　入　日	資　料　名	点　　数
3 月 26 日	玄武洞の玄武岩・山陰海岸ジオパーク関連書籍	19
5 月 3 日	砂鉄	1
7 月 14 日	ゴビ砂漠の砂	1
7 月 20 日	イノセラムス化石	5
9 月 4 日	岩石類	74
12 月 9 日	アンモナイト化石	14
	合　　計	114

(2) 講演・講座等

令和 2 年度

・アポイカレッジ「ジ（THE）おさんぽ　特別版　幌満おさんぽ」

日　時　令和 2 年 7 月 4 日

場　所　幌満地区

内　容

幌満地区にある幌満自然公園やジオサイト、地区の歴史に関する見どころを、ゆっくり歩きながら見学する事業を実施した。

・アポイカレッジ×図書館講座「Wikipedia（ウィキペディア）タウン　in　様似町」

日　時　令和 2 年 9 月 27 日

場　所　町立様似図書館　視聴覚ホール

講　師　日下久八氏（Wikipedia 日本語版管理者）、中村拓也氏（Code for Hakodate）

共　催　様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会・町立様似図書館

内　容

インターネット上の百科事典である「Wikipedia（ウィキペディア）」。この中に町内の見どころに関するページを作成し、世界へ向けて情報発信する事業を実施した。今回は「エンルム岬」のページを作成した。

・アポイカレッジ×アポイ岳自然セミナー「アポイ岳と大雪山～高山植物の生育環境～」

日　時　令和 2 年 8 月 25 日

場　所　様似町中央公民館文化ホール

講　師　高橋伸幸氏（北海学園大学教授）

共　催　様似町・様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会

内　容

アポイ岳再生事業で観測してきた気象観測データの様子について、大雪山との比較を行いながら現状報告する講演会を実施した。

・アポイカレッジ×アポイ岳自然セミナー「天然記念物って何でしょう？」

日　時　令和２年 10 月 29 日
場　所　様似町中央公民館文化ホール
講　師　田中厚志氏（文化庁文化財第二課天然記念物部門）
共　催　様似町・様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会
内　容
　多くの文化財をもつ様似町にある天然記念物の貴重さや全国的な動向についての講演会を実施した。

・アポイカレッジ「『かつてのプレート境界』を歩こう！」

日　時　令和２年 10 月 31 日
場　所　町内冬島地区
主　催　様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会
内　容
　昨年度、北海道、日高山脈そしてアポイ岳を形成したプレート境界を再確認したため、その解説及び見学会を実施した。終了後のオプショナルツアーとして、近くにある沢でも見ることができるプレート境界の観察会も行った。

・特別展「幻の花　ヒダカソウ」

日　時　令和２年４月１日～６月 30 日
協　力　様似町アポイ岳ジオパーク推進協議会、アポイ環境科学委員会、アポイ岳ファンクラブ、北海道大学北方生物圏フィールド科学センター
内　容
　様似町の花「ヒダカソウ」は、近年では登山道沿いでほとんど見られない。このヒダカソウの株を保存するため栽培している北海道大学植物園よりいただいた株を展示するとともに、ヒダカソウを含めた高山植物の保存活動を紹介する特別展を開催した。

・自然観察会「ブラアポイ」

日　時　令和２年７月 23 日～26 日、８月８日～10 日、９月 20～22 日、10 月 17 日・25 日
内　容
　アポイ山麓自然観察路やその周辺を学芸員等とめぐり、大地と人々との関りや自然観察を楽しんだり、地形模型の製作などを行う事業を実施した。

・ミニ企画展「くらべてみよう山陰海岸ジオパークとアポイ岳ジオパーク」

日　時　令和２年８月１日～10 月 31 日
協　力　山陰海岸ジオパーク
内　容
　山陰海岸ジオパークエリア内に位置する玄武洞の玄武岩と様似町のかんらん岩の標本交換を行ったことにあわせて、山陰海岸ジオパークとアポイ岳ジオパークの違いを知る企画展を開催した。タイムリーな話題である山陰海岸ジオパークにゆかりのあるチバニアン紹介展示も作成した。

・特別展「隕石とコマチアイトを見てみよう！」

日　時　令和２年９月１日～10月31日（11月５日～26日は町立様似図書館で展示）

内　容

かんらん岩と類似する化学組織を持つ「コマチアイト」や、地球外から飛来した「コンドライト隕石」を、地球や惑星の起源を探求する小惑星探査機「はやぶさ」「はやぶさ２」の活動成果を含めて紹介する特別展を開催した。

(3) 連携事業

様似郷土館と同様のため省略

(4) 資料の貸出等

令和２年度の資料貸出等の件数は、12件であった。内訳は貸出２件、デジタルデータ貸出６件、標本提供４件、複写１件、総貸出点数は51点であった。詳細は以下の通りである。

日　付	区　分	資　料　名	点　数
3月26日	デジタルデータ貸出、標本提供	アポイ岳ジオパーク紹介パネル・かんらん岩・ガイドブック・パンフレット	7
4月23日	デジタルデータ貸出	写真（エンルム岬・幌満峡）	2
5月1日	デジタルデータ貸出	かんらん岩の偏光顕微鏡写真	2
6月6日	標本提供	エゾカンゾウ	2
6月11日	貸出	砂鉄・砂・アナグリフ図・金・パンニング皿・ひん岩	7
8月26日	標本提供	かんらん岩	1
9月1日	貸出	かんらん岩	1
10月26日	デジタルデータ貸出	ポスター「プレート衝突とアポイ岳ジオパークの暮らし」	1
11月18日	デジタルデータ貸出	かんらん岩の偏光顕微鏡写真	4
12月1日	デジタルデータ貸出	DVD「アポイ自然セミナー」	2
12月22日	標本提供	かんらん岩	20
12月30日	複写	地質図	2
		合計	51

5. 学芸員の館外対応

・**加藤学芸員**(専門：岩石)

日　付	所　在　地	内　容
5月24日	様似町	日本地球惑星連合科学大会ジオパークセッション「プレート衝突とアポイ岳ジオパークの人々の暮らし」iPoster発表
6月10日	様似町	様似小学校５年生アポイ登山事前学習講師

7月3日	様似町	様似小学校4～5年生アポイ登山学習講師
9月29日	様似町	浦河第二中学校1年生岩石標本づくり講師
10月5日	様似町	様似中学校1年生「総合的な学習」講師
10月26日	浦河町	堺町小学校6年生「大地のつくりと変化」講師
10月28日	えりも町	えりも高校1年生「探求学習」講師

・水永学芸員(専門：植物生態学)

日　付	所　在　地	内　容
6月10日	様似町	様似小学校3～4年生アポイ登山学習講師
6月30日	様似町	幼児センターアポイ登山事前学習講師
9月19日	様似町	えりも高校アポイ登山学習講師
9月29日	様似町	浦河第二中学校1年生マダニ標本づくり講師

(田村　裕之・水永　優紀・加藤　聡美)

6. アポイ岳ジオパークビジターセンターの設置及び管理運営に関する要綱

○アポイ岳ジオパークビジターセンターの設置及び管理運営に関する要綱

平成２５年３月２９日

訓令第１６号

（趣旨）

第１条　この要綱は、アポイ岳ジオパークビジターセンター（以下「ビジターセンター」という。）の設置及び管理運営に関し必要な事項を定めるものとする。

（設置）

第２条　アポイ岳をはじめとする様似町の学術的に貴重な地質、自然環境及び歴史文化などの地域資源（以下「地域資源」という。）を紹介することで、町民及び来町者の地域理解を図り、もって様似町の教育及び観光振興に寄与するため、ビジターセンターを設置する。

２　前項のビジターセンターの名称及び位置は、次のとおりとする。

名称	位置
アポイ岳ジオパークビジターセンター	様似町字平宇４７９番地の１３・１４

（職員）

第３条　ビジターセンターに、センター長及び必要と認める職員を置く。

（業務）

第４条　ビジターセンターは、おおむね次に掲げる業務を行う。

（１）　地域資源に関連した資料の収集及び展示

（２）　ジオパークの普及啓発

（３）　アポイ岳の自然に関する情報提供

（４）　アポイ山麓ファミリーパークキャンプ場の管理

（開館時間及び開館期間）

第５条　ビジターセンターの開館時間及び開館期間は、次のとおりとする。

（１）　開館時間　午前９時から午後５時まで

（２）　開館期間　４月から１１月末日まで

２　前項の規定にかかわらず、町長は管理運営上特に必要と認めたときは、その開館時間を伸縮し、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

（入館料）

第６条　ビジターセンターの入館料は、無料とする。

附　則

この訓令は、平成２５年４月１日から施行する。

様似郷土館紀要　３号

発行年月日　令和３年(2021) ３月 31 日

編集・発行　様似町教育委員会

〒058－8501　北海道様似郡

様似町大通１丁目 21 番地

印　　刷　株式会社　総北海